

1 研究主題

学びひたる

— 三位一体の学び「TDL」を実現する —

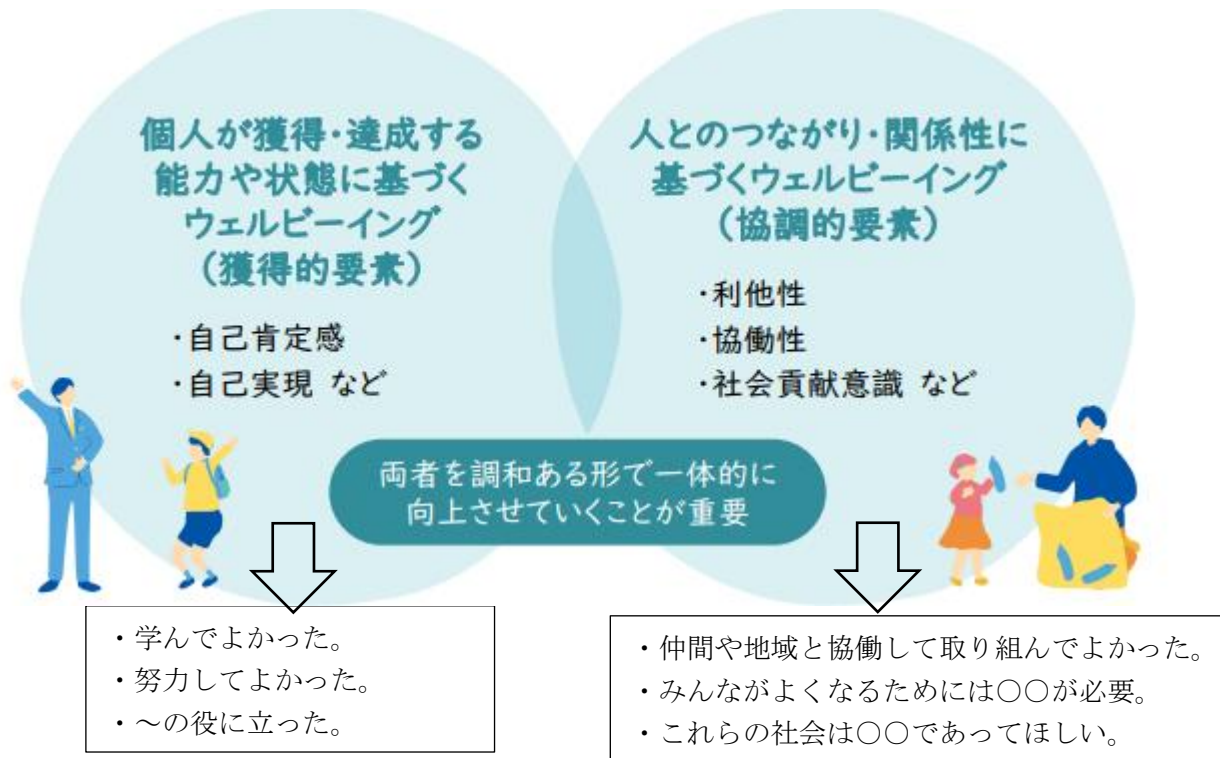
1 学びひたる子どもの姿 ～ウェルビーイングの視点でとらえて～

- ・ 学びひたる状態 = 課題に対して没頭している状態。没頭していると心の「知・情・意」が高まり、パフォーマンスがあがる。(慶応義塾大学 鹿毛先生)
- = 今のウェルビーイングを実感すると同時に、未来のウェルビーイングの実現を期待しながら学んでいる姿

ウェルビーイングとは

- 心も体も人との関係も良い状態にあることをいい、今も未来も持続的な幸福を含む概念。
- 多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個も場も社会も幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念

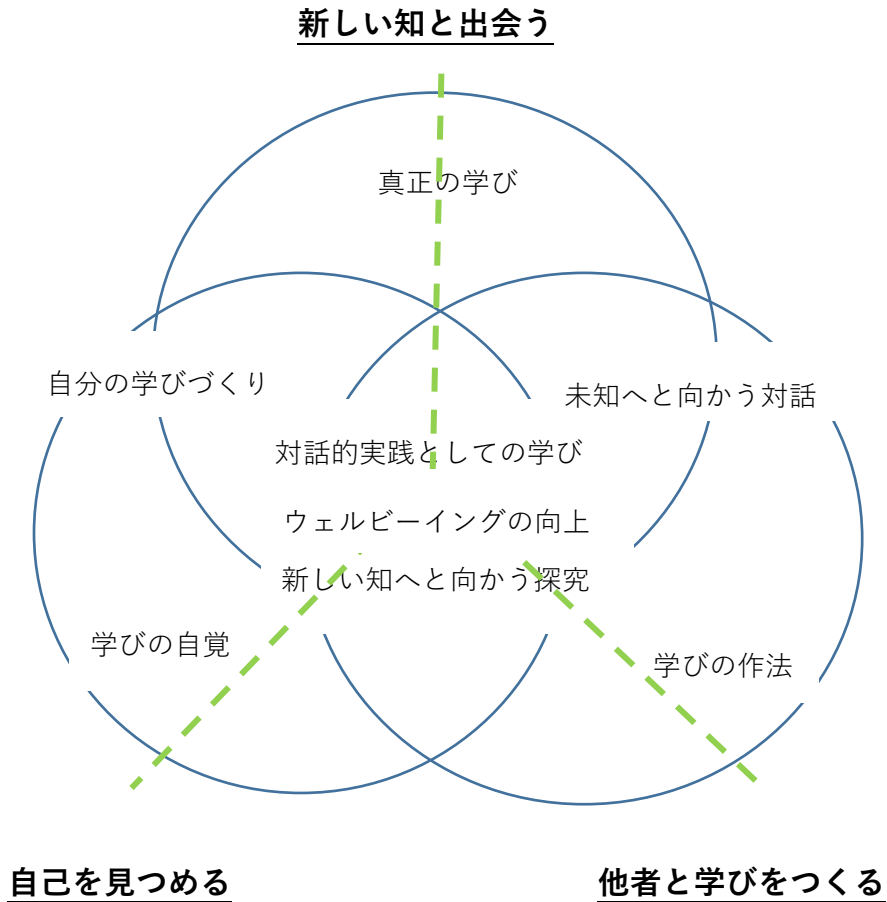
※ 近年、幸せの研究が進み、ウェルビーイングを感じる人の方が、より多くのことを成し遂げられることが分かってきたため、ウェルビーイングの向上が必要となってきた。



参考資料：教育振興基本計画（第4期） 令和5年6月16日

： YouTube テレ東【公式】 秒でNEWS180 「ウェルビーイングってなに？」

2 三位一体(TDL)の学びとは



三位一体(「新しい知と出会う」「自己を見つめる」「他者と学びをつくる」)の3つの軸を大切にし、授業をデザインする。

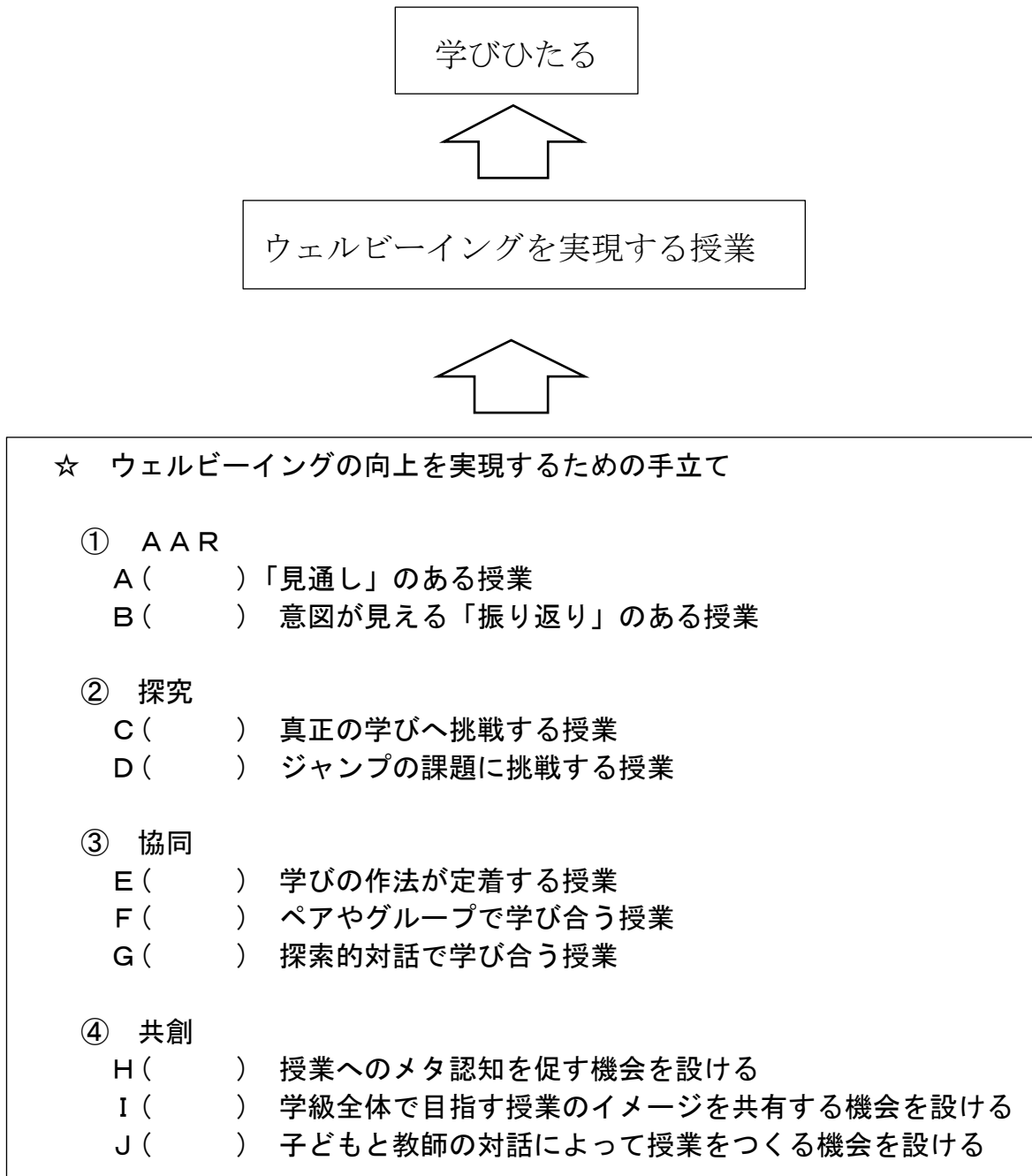
※ 前年度までは「学びの自覚」の1つの要素である「学習を調整する」こと、「学びの作法」が児童に定着することに重点を置いて研究を行った。

○ 学習を調整するとは

課題に対して見通しをもって行動し、その行動がどうであったのかを振り返ることで、次の学びにつなげること。1時間の授業の中や単元を通して調整することもある。

※ 1、2年生は、3年生から学習を調整することができるようになることを見越し、発達段階に応じて指導をしていく。

3 本年度の重点的な取り組み



() の中に以下の記号を入れ、今年度の重点目標を決めましょう。

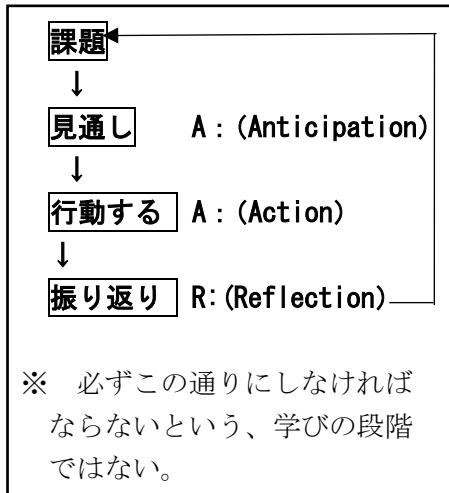
◎・・・重点的に取り組みたいもの

○・・・できれば挑戦したいもの

☆・・・学年で「これはする」というもの

4 研究の具体的な手立て

① AARについて



② 探究について

課題・・・(1) 真正の学びになるような課題づくりの工夫
(2) ジャンプの課題を設定する

見通し・・・見通しキーの活用

行動する・・・各教科の手立ての活用

振り返り・・・振り返りキーの活用、ポートフォリオの活用

※ 探究的な学びとは
自ら問いを立てて、その解決に向けて情報を収集・整理・分析し、周囲の人と意見交換・協働したりしながら進めていく学び。

見通しを持とう

見通しは、課題にせまるための作戦会議
次のキーを使って作戦を考えよう ここまでは分かるけど

- よそうキー：こうなりそう、これくらい、○○かな？
- みかたキー：どこ見る？、○○に目をつけよう
- あいであキー：くらべて、つなげて、わけて、まとめて考えよう
- ほうほうキー：どうやって？、○○で調べよう、聞いてみよう
- じゅんじょキー：何から？、次は？、どの順番？

【 見通しキー 】

ふりかえりを書こう！

ふりかえりはみんなの成長記録。今日の自分の「まなび」を文章で表してみよう。
次の中から、いくつかのキーを使ってみよう。

- みかたキー：○○に目をつけて、～の見方で
- ひらめキー：～と比べて、～をつなげて、まとめて、分けて
- なまかキー：○○さんの意見で、○○さんは、～からわかった
- のびたキー：わかるように（できるように）なった、前とくらべて
- はてなキー：～に疑問を持ちました、わからないのは
- みらいキー：～の役に立つ、次の時間は、～を調べてみたい (ウェルビーイング) これからは、学んだ意味は、みんながよくなるために

【 振り返りキー 】

ウェルビーイングの視点の振り返り

③ 協同について

(1) 学びの作法が定着する授業

- 学びの作法
- ① 仲間の言葉をよく聞く
 - ② 自ら仲間の力を借りる
 - ③ わかったふりをしない
 - ④ 困っている友達には、さりげなく手をさしのべる
 - ⑤ 頼られたら最後までよりそう

(2) 一斉授業から脱却し、ペアやグループ、コの字で学び合う授業

(3) 探索的対話で学び合う授業

発表的対話(分かっていることを伝え合うだけ)でなく、

- ・ どういうこと？ ・ 何で？ ・ どうやるの？
- ・ どうして？ ・ どっち？ ・ どういう意味？

などの未知に向かう言葉の交流

単元名 水を治める

暴れる水を治めるためには、どのようなことが必要なのだろうか。

水質三川の下流域を、水害から守るためにどんなことが必要なのだろうか。

見通し

振り返り

完璧な水害をさらに減らすためには、どのようなことが必要なのだろうか。

見通し

振り返り

単元全体の自分の見通しはどうであったのか。学んだことや学び方はどうであったのか振り返りをしよう。

【 ポートフォリオ 】

④ 共創について ※すべての学級で取り組みます。

○ 児童と教師が目指す学びの姿を共有し、その実現にともに関与しようとする授業づくり

→ どんな学びがしたいか（できるのか）を児童と教師がともに考える授業づくり

（授業をメタ認知する）

「授業は与えられるものではなく、みんなで一緒につくるもの、変えられるものである」

「自分もまた授業づくりの主体者であり、その責任を負う一人である」児童と共に授業をつくる



— そのための手立て —

4月… 教師が目指したい授業を児童に伝え、授業の様子を把握する。

5月… 教師の目指したい授業に近づいたか、または児童はどのような授業をつくりたいのか、現状はどうかをアンケートなどで把握し、児童と共に目標を決め、掲示する。

9月下旬… 授業の現状を共有し合い、児童と共に目標を見直す

1月下旬… 授業の現状を共有し合い、児童と共に目標を見直す

※ 1、2年生は教師の目指したい授業を伝え、目標を設定する。

5 一人一授業について

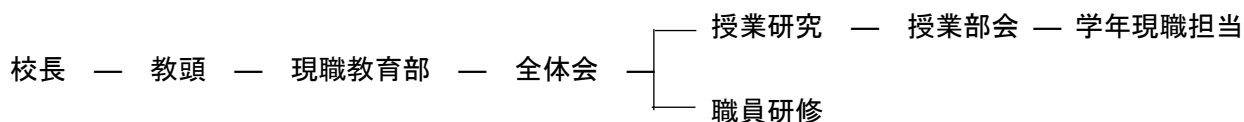
- ・ 低・中・高・特支（すずらん）の授業部会とする。専科は担当の学年を選んで授業部会に入る。授業の構想から話し合ったり、児童理解をさらに深めたりする。

— 一人一授業のもち方 —

- ・ 学年を中心に事前の協議をする。
- ・ 学年内で教科に偏りがないようにする。
- ・ 学年の先生の授業とペア学年の二人の授業は参観する。
- ・ 授業部会以外の授業にも、年に1度は参加する。
- ・ 特別支援学級の担任や交流学級の担任は、在籍する児童の授業公開を少しの時間、参観する。
- ・ 授業公開・事後の研究協議会に参観者は参加する。（公開は原則2学期まで）
 - 授業公開参観中、フロアに先生が誰もいない場合は、学年の先生が1名残るか、空いている先生にフロアを見てもらうように現職担当に相談する。
- ・ 公開当日に研究協議をすることを原則とする（研究協議が困難な日の公開は避ける。）
- ・ 検討会の司会は授業部会のリーダーの先生がする。
- ・ 研究協議会は15：45（木曜日課は14：15）から会議室です。下校指導は学年の先生が1名は残り、他学年にお任せする。その日の打ち合わせは参加せず、打合せノート等で連絡を確認する。
- ・ 11～12月に授業公開が重ならないように、学年で公開の時期をずらす。
- ・ 授業をする先生は、全体、授業部会、教務の先生に、必ず3日前までに知らせる。

- ・ 指導案は授業デザインシートを活用し、裏面に名前入りの座席表を印刷する。㊟になるので保管に留意する。外部へ配布する場合は、回収するかシュレッダー処理をお願いする。
- ・ 授業を見る際には座席表を用いて、児童の様子や変容を中心に記録し、事後の検討会に生かす。児童に声かけはしない。
- ・ 5月の現職教育で授業部会ごと集まり、カリキュラム構成を考える。手立てを決め、今年度取り組む授業デザインシートをつくる。(授業つくろう会)

6 研究組織



7 研究のまとめ

- ・ 授業デザインシートと授業の振り返りを両面で印刷して配り、現職教育ファイルに綴じる。
- ・ 2学期の終業式の午後に、他の学校の授業を参観された先生や研修を受けた先生は研修報告をする。また、授業部会で反省をし、リーダーの先生は今年度の成果と課題の報告をする。